

発行人／吉岡正人広報委員長
 発行／公益社団法人千種法人会
 〒464-0067 千種区池下1-4-18井上ビル3F
 電話 (052)763-0951
 企画・編集／東海紙工株式会社・株式会社グラネット
 印刷／東海紙工株式会社
<https://hojinkai.zenkokuhojinkai.or.jp/chikusa/>



玖島ローズ代表
 株式会社セボワール代表取締役

くしま えつこ
 玖島悦子さん

令和七年
年頭のごあいさつ



公益社団法人 千種法人会 会長
水野 茂生

皆様、あけましておめでとうございます。

令和7年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様をはじめ関係各位におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。また、日頃から千種法人会に対して格別のご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

当会は、昭和43年9月5日に創立され、昭和55年6月3日には社団法人として設立が認可されました。このような長い歴史を積み重ねる中で公益社団法人として活発で公益性の高い事業活動を展開できますのも、役員の方々をはじめ、会員の皆様の本会に対するご理解と真摯な取り組みのおかげであり、ここに改めて感謝申し上げる次第であります。

われわれ法人会は、「税のオピニオンリーダーとして、企業の発展を支援し、地域の振興に寄与し、国と社会の繁栄に貢献する経営者の団体である。」という基本理念に基づき、税知識の普及や納税意識の向上を目的とした事業、地域社会への貢献を目的とした事業に、役員をはじめ会員の皆様と共に幅広く積極的に活動を展開してまいりました。

このところの活動を振り返ってみますと、令和5年10月にインボイス制度が実施され、また、昨年1月の改正電子帳簿保存法の施行、6月からの定額減税の実施など、大きく税制が改正されておりますので、引き続き税務協力団体として税務署と連携を図りながら、「インボイス制度研修会」をはじめ、「給与等の源泉徴収事務に係る令和6年分所得税の定額減税説明会」や「年末調整時における定額減税事務説明会」など実施してきましたほか、従来から実施してきております「新入社員研修会」、「名東区民まつり」、「改正税法研修会」、「やさしい法人税セミナー」、「千種区民まつり」、「初心者のための源泉所得税研修会」、「中間管理者研修会」、「自主点検チェックシート研修会」、「事業承継セミナー」などの事業を実施することができました。また、政策アナリストの石川和男氏を講師としてお招きした経済講演会も開催できました。これもひとえに会員の皆様方のご理解ご協力のお陰であり感謝申し上げます。

ここに新しい年を迎えましたが、本年も「よき経営者を目指すものの団体」として地域や会員企業の発展に貢献できる「魅力ある法人会」の事業活動を展開できる年となることを強く切望いたします。

最後になりましたが、税務ご当局をはじめ関係各位の変わらぬご指導、ご支援をお願い申し上げますとともに、会員の皆様の益々のご繁栄とご健勝を心から祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

広報誌「ちくさ」2月号 目次

年頭あいさつ	1
表紙の人	2
玖島 悦子 さん	
署長インタビュー	4
千種税務署長 江端 長祐 氏	
千種法人会 経済講演会	6
政策アナリスト・社会保障経済研究所代表 石川 和男 氏	
賀詞広告	8
report	9
県連三県横断税務広報	
令和6年度 納税表彰式	
report	10
令和6年度 小・中学生の税に関する優秀作品表彰式	
税に関する絵はがきコンクール優秀作品	
年調定額減税説明会	
青年・女性部会 合同研修会	
中間管理者研修会	
report	12
広報委員会	
青年部会定例会	
自主点検チェックシート研修会・副署長講演会	
女性部会秋の研修会	
事業承継セミナー	
県連・女連協情報交換会	
県連税制講演会	
県連運営研究会	
女性部会役員会	
総務委員会	
上社支部合同講演会	
税務情報	14
report	16
青年部会定例会	
名古屋市内会専務理事打合せ会	
税務連絡協議会役員会	
県連理事会・賀詞交歓会	
青年部会定例会	
正副会長会・理事会・新春講演会・賀詞交換会	



名古屋国税局 課税第二部長

堀内 誠一郎

令和7年の年頭に当たり、公益社団法人千種法人会の皆様に謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

会員の皆様には、平素から税務行政につきまして深い御理解と格別の御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

公益社団法人千種法人会におかれましては、税のオピニオンリーダーとして、「租税教室」や「税に関する絵はがきコンクール」といった税の啓発活動のほか、地域社会への貢献活動を実施していただいております。

私どもにとりましても、皆様のこうした活動は、大変心強いものであり、水野会長をはじめ、役員の皆様並びに会員の皆様の日頃の御尽力に対しまして、心から敬意を表する次第であります。

昨年は、物価の高騰や気候変動の影響などを強く感じた一年でしたが、パリオリンピック・パラリンピックでの多くの日本人選手の活躍や、スポーツ選手の海外での活躍など、大変喜ばしい出来事もありました。

このような中、新しく迎える年が、会員の皆様にとって充実した年となりますことを祈念いたしますとともに、公益社団法人千種法人会が引き続き魅力ある事業活動を展開され、会員企業と地域社会の発展に一層の貢献をされますことを御期待申し上げます。

私どもといたしましては、本年も引き続き、「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」という使命を果たすために、グローバル化やデジタル化の進展等の経済社会の変化に柔軟に対応し、様々な課題に的確に対応していくことが重要であると考えております。

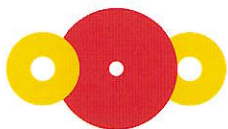
国税庁が推進する「税務行政のDX(デジタル・トランスフォーメーション)」は、こうした変化に対応するための取組の一つであり、これまで以上に納税者の皆様の目線に立ち、日常使い慣れたデジタルツールから簡単・便利に手続を行うことができる環境構築や、データ活用を基軸とした調査・徴収事務運営など、「納税者の皆様の利便性の向上」、「課税・徴収事務の効率化・高度化」を進めてまいります。

更に、税務行政のデジタル化と併せて、法人会をはじめとする関係民間団体の皆様や関係省庁とも連携を図りながら、「事業者のデジタル化促進」にも取り組み、社会全体のDX推進に貢献してまいりたいと考えております。

本年も、法人会の皆様との信頼関係をより深いものとし、これらの取組を進めてまいりたいと考えておりますので、一層の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに当たりまして、公益社団法人千種法人会の更なる御発展と、会員の皆様の御健勝並びに事業のますますの御繁栄を祈念いたしまして、年頭の御挨拶とさせていただきます。





取材日時…令和6年11月14日(木)14:00~15:30
取材場所…ホテルルララ王山
聞き手…遠藤乱歩・広報委員、辻奈緒・広報委員



38本のバラが開いた人生の扉

くしま えつこ
玖島ローズ代表・株式会社セボワール代表取締役 玖島悦子さん

38歳の誕生日に母が贈ってくれた38本のバラ

—無農薬のバラとの出会いをお聞かせください。

私の38歳の誕生日に母から38本のバラの花束をもらいました。後日その花の栽培農家さんに母と行き、化学農薬を使用しない栽培であることを知ったのです。花というのは基本的に口に入れないから農薬や化学肥料使用の基準が緩く、いわば工業製品のようなものが一般的な鑑賞用の花なのだという話を聞きました。そして花は切られても呼吸しており、吸ったものを吐いているのだと。だから安心して香りを嗅ぐことができる花を栽培していると言うのです。私はお話を聞いて閃光を浴びたような感覚を覚え、農家さんを応援したい気持ちで毎週100本のバラを購入することになりました。ところが3週目から、何と600輪のバラが届くようになり何週かすると部屋はバラで一杯に。寒い時期で枯れることもなくバラは溜まる一方…。でも枯れずに懸命に咲き、いい香りを放つバラを捨てる気にはなれませんでしたね。そんなある日、ふと無農薬の花だから食べられるのじゃないかと閃いたのです。最初美味しいとは思いませんでしたが、不思議にもまた食べたくなる、これは後で知ることになるバラの薬効の一端でした。バラを刻んでクッキーやケーキに入れたりシロップやジャムを作ったりして、「食べるバラ」の形にしてみましたよ。それを贈った友人たちにも好評で、商品化したいと考えるように…。そこで近くのケーキ屋さんに飛び込みでお願いし、試行錯誤の末パウンドケーキができました。「食べるバラ」最初の商品です。

「食べるバラ」の魅力にのめり込んで。

—多くの人に知ってもらうため、どんなことをなさいましたか。

それまで私は美容関連の営業で収入もよく、小学生の娘と2人で安定した生活を送っていました。ところが気持ちはもう「食べるバラ」の方へ向いていたのです。その頃ちょうどCOP10の生物多様性条約締約国会議が名古屋で開催されることを知り、出展に応募。無農薬のバラの素晴らしさを多くの人に知ってもらいたかったのです。そこで「食べる」ということに特化して持続可能な流通の仕組みを考え、その提案が受け入れられました。世の中への告知と同時に販売しないことには持続しません。百貨店に飛び込み営業し、まずは1週間のイベントに出店。シール

貼りから販売現場まで全て自分でやりましたね。当初二足の草鞋だったためにどちらも中途半端になり、これではいけないと一念発起、安定を捨てて「食べるバラ」を選択してしまったのです。2010年の頃でした。

百貨店に出るようになって4年ほど経った頃、あまりにも多忙な毎日が続き、睡眠も3時間ほどでした。そんな状況のなかで売り上げを持ち逃げされたり、バラが手に入らなくなったりという事態が起こりました。バラは仕入れ先の農家さんのご事情が変わられたようでこちらに回ってこなくなったのです。いろんなことが重なって私は体調を崩し病院へ。ところが病院で鬱と診断された途端、気持ちが一パツと明るくなった気がしました。というのも、販売の現場でお客様から「食べるバラ」の様々な効果を聞く機会が多かったから、そうかバラを食べればいいと思ったわけですよ。色々調べてみたら多彩な効用情報や漢方薬の材料に使われていることがわかりました。それまでは売ることに意識が向いていて、自分が食べることはなかったのですが、鬱と診断されて毎日食べるようにしたら効果顕著、すっかり治ってしまいました。実は私が一番バラを欲していたのだなあと思いました。

飛騨の無農薬栽培のバラとの出会い

—飛騨との繋がりはどうして生まれたのでしょうか。

お花も入ってこなくなり、生活も苦しかったのでアルバイトをしました。百貨店で隣同士になった和菓子屋さんからお声掛けいただき販売の仕事をお願い、いろんな所へも出掛けて売りました。そのなかで東京上野動物園での岐阜県フェアに行く仕事がありました。すると現地でのこと、私のいたブースの後方から「食べるバラ〜」って叫ぶ呼び込みの声が聞こえたのです。おじいさんが籠にバラを載せてジャムを売っていました。聞けば岐阜県飛騨市河合町で食べるバラを栽培していると言うではありませんか。また閃きましたよ、これは千載一遇のチャンスかもと。自分の仕事を説明して、栽培している無農薬のバラを売っていたくことになりました。2012年の出会いでした。

2019年のある日、その飛騨の農家さんが名古屋へ来られた折、後継者問題について躊躇しつつ伺ってみました。後日連絡があり、飛騨の振興事務所の所長さんに会わせたいと仰るのです。てっきり「食べるバ

ラ」の話だと思って飛騨へ行ったのですが、所長さんはバラの話には触れず飛騨という地の素晴らしさについて、ずっと話されていました。飛騨は全面積の97%が森林で落葉樹の森が広がっており、土はとてもミネラルが多いとか…。そして森へ誘われて行ってみると、いろんなモヤモヤした思い、心が解けていくのを感じました。森が癒してくれるって、こんな感じなのでしょうね。そこでふと思ったのです。実は 2014年から「食べるバラのランチ会」というイベントを定期的に開催していたのですが、そのお客様を飛騨へお連れして森の散策やバラ摘みなどをしたら、喜んでもらえるのではないかと。飛騨河合は過疎化が進んでいるので、人口増はこの先見込めないものの関係人口は増やせるのではないかと思います。都市と農村交流の一助になれるかもしれないと考えたのです。そこで「食べるバラと飛騨の森」というイベントをやろうと、2020年から本格的に飛騨へ通い始めました。地域の若い人たちと一緒に様々な企画を立てましたが、ちょうどコロナ禍に突入する頃。イベントの縮小や延期、果ては中止に追い込まれ盛り上がり気運も冷める状況でしたが、私は夏も冬もずっと飛騨へ通いました。でもコロナ禍でも悪いことばかりではありません。百貨店でも商売全般に暗雲立ち込める状況になった頃、銀座シックスからお声掛けいただき期間限定のPOPUPストアの契約ができたのです。「食べるバラ」はリピーターのお客様が多くコロナ禍でもそれなりに売上げがあり、契約も5回延長しました。

その頃、飛騨市のバラ栽培農家の方が79歳で他界され、一気に後継者問題が浮上してしまいました。そこで私のバラへの気持ちがムクムクと起き上がり、土地を借りてバラの栽培をすることに決めたのです。農業の知識は全くありませんでしたから、ちょっと無謀だったかもしれませんがね。

バラと向き合ってみてきたもの

—ご自身で農業を手掛けることになったのですか。

最初の1年は、畑の作業を誰かにやってもらい自分は管理をしていればいいと思っていました。名古屋で知り合った配送業の若い男性が会社を辞めて飛騨へ行って栽培をすることに。しかし紆余曲折があって、結局は辞めてしまいました。誰もいなくなって、私がやるしかありません。農業のことを一から勉強しました。変な言い方ですけど、バラの精がきっと私にやらせたかったのだと思いましたね。私は専らYouTubeで勉強を始めたのですが、そこで「自然農法」に出会ったのです。環境さえ整えればバラは咲いてくれると思い、2024年は畑全部を整地。土を作り、畝を立てて苗を植え、徹底的に携わるようになりました。

結局私がやりたかったのは原材料の調達ではなく、バラを作り、その食べるバラを通じて人との交流、都市・農村の交流だったのだと思いました。2024年は新たに隣の畑も借りて整地し、ひまわりの種を蒔きました。ひまわりが土の中に戻り、土を豊かにしてくれるのです。私のやっ

ている事業は、バラを扱う華やかなイメージしかないと思いますが、その土台となる栽培には地道な作業があるのです。安心して鑑賞し、摘み、食べる…私はその過程でいろんなことを学ばせていただいたと思います。

食べるバラを通じて出会った縁

今、私は東京の店と拠点の名古屋、そして飛騨の畑、それぞれ3分の1ずつのサイクルで動いています。2024年はバラ摘み体験を1泊2日で開催、全国各地からお客様が参加してくださいました。都市・農村の交流を通じて両者のかけはしになればいいなと思いますね。

今までいろんな出来事に遭遇しましたが、全て必然だったのだと今は思っています。いろんな方に助けられてここまで来ましたが、なかでも恩人というべき方の存在があります。まず、食べるバラを持って飛び込んだケーキ屋モンパルさん。何度も試作を重ねてバラの香り溢れるケーキを作り上げてくださいました。もう1人、並々ならぬお力添えくださったのが飛騨の事業家で河合町出身の船谷さんです。出会いは飛騨で開催された菓草のイベント。その食事で話しかけられ、食べるバラのことや河合町での活動のことなど、いろいろなお話をしたのです。船谷さんは古川在住で河合町に別荘をお持ちだったのですが、別荘を私に開放してくださいました。まるで親子のように接していただき、別荘だけでなく様々な場面で助けられました。畑が出来上がった時には涙を流して喜んでくださったのです。本当に感謝しかありません。

—今後の夢や展望についてお聞かせください。

無農業のバラと出会いインスパイアされて事業を広げることができました。今までは全てに自分がプレーヤーとして携わってききましたが、今後は会社の仕組みそのものを見直してアップデートしていきたいと考えています。もう少し見える化して、誰でもできるという形にしたいと思うのです。みんながそれぞれ自分の得意なことを持ち寄り、「楽しい」と思う表現方法で構想が叶えられる会社になりたいと思っています。



●プロフィール

玖島 悦子(くしま えつこ)

株式会社セボワール代表取締役、
食べるバラの専門店・玖島ローズ代表

2008年環境に優しい無農業のバラとの出会いから「食べる」に特化した商品を開発し百貨店に飛び込み営業をし販路を拓く。2022年取引先だった岐阜県飛騨市のバラ畑を継承し、初めての農業に取り組み奮闘する傍らバラ摘み体験などのアクティビティを通じた地域活性化にも取り組んでいる。名古屋在住。現在はPOPUPストアのある銀座とバラ畑のある飛騨と名古屋を行き来している。

ホームページ: <https://organicflower.jp/>





基本に忠実であれ

千種税務署長 江端 長祐氏

署長インタビュー

取材日時…令和6年12月9日(月) 11:00~11:30
聞き手…鈴木美奈子(広報委員)、辻奈緒(広報委員)
取材場所…千種税務署 署長室

明けましておめでとうございます。
今年もよろしくお願いいたします。

キャッシュレス納付の推進

—新年のご抱負からお聞かせください。

我々の仕事は、国税庁の組織理念である「納税者の自発的な納税義務の履行を適正かつ円滑に実現する」という使命を、実行していくことであり、具体的には、よく言う言葉ですが、適正・公平な課税と徴収の実現という部分と、納税者サービスの充実という面を両立することです。

そのために税務職員は、税のプロとして、税法的な知識の習得を行うこと、特に若い職員については、社会人としてのマナー、一般常識を習得できるよう日々励んでいます。

今年の抱負・課題としては、税務行政のDXの推進、中でもキャッシュレス納付の利用拡大を最重要課題として取り組んでいます。

世の中の急速な、キャッシュレス化が進んできたこと、また税務署側から発信している「税務署に行かなくても、自宅から申告や納税ができる社会の実現」に向けて、e-Taxによるダイレクト納付の利用勧奨を行っています。

まだ、ダイレクト納付を行っていない皆様には、ぜひダイレクト納付の手続きをお願いします。

—赴任されて、半年になります。管内の千種区と名東区の印象はいかがですか。

閑静な住宅街が広がり、名門大学・有名私立学校が点在する文教地区となっていることに加え、公務員宿舎が非常に多い地区でもあります。

JR、地下鉄、市バスなどの公共交通機関も充実しており、また覚王山スイーツ、星ヶ丘テラスといった、おしゃれで流行の先端を進んでいる地区があり、あらゆる世代に人気の高い地域であると思います。

徴収の仕事

—ご略歴を拝見しますと、徴収の仕事を経験されています。お仕事の内容をお聞かせください。

適正な申告がされているかを確認することが、調査事務とすると、徴収事務は、決まった税金で納まっていない滞納を、納税者の個々の実情を把握した上で、病気等で一時に納められない方には、納税の猶予などの手続きを行います。

一方で、納付に応じない滞納者に対しては、差押・公売といった強制的処分と税金を徴収しています。

直前の国税局徴収部機動課というところは、人員が不足している税務署の管理運営部門及び徴収部門に機動課職員を派遣し、支援を行う部署で、機動的に運営するという意味の機動課です。

—千種税務署長に就任され、半年が経過しました。

署内の雰囲気をご覧になってお気づきのところ、また日頃職員に、どのように接しておられるかお聞かせください。

千種税務署は、育児休業者などの職員も含め130名弱の職員がいます。

平均年齢でいうと、43歳ですが、その内職場に入ってから4年目までの職員が2割で、若手職員の多い元気のよい職場です。

一方50歳以上の職員も多く、中には、個人課税の特官部門のように10名で平均年齢59歳といった部署もあり、年配者と若手職員のコミュニケーションを密に行う必要がある職場となっています。

着任直後に署の基本方針として、事務に関しては基本的に忠実に取り組むことを主に、「明るく風通しのよい職場、情報管理の徹底、健康管理」という3点を掲げ、千種署という1つのチームとして、署内では、皆声をかけ、よく話をしてほしい、と伝え、私も含め職員とよく話をするようにしています。

—子供のころはどのような少年でしたか。

私は、出身、現住所ともに愛知県知多市です。

知多市の名産品はペコロスですが、知ってますか。シチューなどに入っているミニ玉ねぎのことですが、そんな農業が盛んな地域で、昔からあまり変わっていない田舎で育ち、大人になったら、名古屋に仕事に行くようになりたいと思って過ごしてきた平凡な子供でした。

今は、セントレアが近くにできて発展してきましたが、まだまだ田舎ですね。

—この道を選ばれた経緯をお聞かせください。

私の就職活動期は、金融機関や証券会社が人気になっていた昭和62年でバブルの始まりの頃でした。

就職活動時に、民間もいろいろ考えてみましたが、しっくりこず、国家公務員、地方公務員について調べていったところ、国税専門官募集に目が留まり、採用試験を受け、縁がありこの職場のお世話になっています。

—健康法、ご趣味を教えてください。

特に趣味らしい趣味はありませんが、私は農地を所有しており、農地の維持管理のため、また自分の健康作りのために草刈などを、休みの日には行っています。

また、ちょっとした小旅行は好きですので、大阪、堺、京都、奈良などの近隣での歴史探訪に行っています。

—これからの夢を教えてください。

夢というほどではありませんが、定年後は、ゆっくり全国の有名な神社巡りをしたいと思っています。

ただ、定年延長制度により、この後2年間は、役職定年となり、税務の職場に勤務させていただけますので、まだ、定年後の夢を考えず、仕事を充実させていきたいと考えています。

—お好きな言葉、座右の銘はございますか。

好きな言葉というより、身上としていることは、「基本に忠実であれ」ということです。仕事に限らず、日々の生活の中でも、無理に何かすることではなく、物事の原理、理由を考え行動する、ということに習慣にしています。

—千種法人会へのメッセージをお願いします。

千種法人会の皆様には、永年にわたり「税のオピニオンリーダー」として、税知識の普及と納税意識の高揚を図るための啓発活動や社会貢献活動に、積極的に取り組んでこられたことに対して、感謝申し上げます。

これも会長をはじめ、役員の皆様の献身的なご努力とリーダーシップの賜物であると深く敬意を表するとともに、今後一層の、魅力ある事業活動の積極的展開をご期待しております。

—貴重な時間をいただきありがとうございました。



■プロフィール

千種税務署長 江端 長祐(えばた ながまさ)

昭和39年(1964) 愛知県知多市生まれ

《経歴》

平成28年(2016)7月 浜松西税務署 副署長

平成30年(2018)7月 名古屋中税務署 筆頭特別国税徴収官

令和元年(2019)7月 小牧税務署 筆頭特別国税徴収官

令和2年(2020)7月 徴収部 特別整理第二部門 統括国税徴収官

令和4年(2022)7月 徴収部 特別整理第一部門 統括国税徴収官

令和5年(2023)7月 徴収部 機動課長

令和6年(2024)7月 千種税務署長 現職



これからの日本の行方

政策アナリスト・社会保障経済研究所代表
石川 和男氏

日本の人口は減り続けています。

これからの日本を考える時に、一番の事象としてあるのは人口問題でしょう。日本の総人口数のピークは2008年で、その後はどんどん減ってきています。これからさらに減ると思われる。2020年から2070年、半世紀後どうなるかというのを俯瞰して人口の推移を見ると、明らかに右肩下がり。ピークの2008年には1億2600万人でしたが、今は1億2000万人です。これがさらに2050～2060年になると1億人をきってしまうことになるのですよ。決してまだ先という話ではありません。あと25年なんてあつという間です。日本の総人口は1950年には8000万人位で2008年にピークを迎え、その後減り続けて2070年には8000万人になるという統計が出ているのです。

でも総人口の減ることが国を脅かすかという、私はそうではないと思っています。1950年と比べて現在、何が違うのかということを考えてみましょう。

人口の年代比率、人口の年代バランスが崩れているのです。

15歳から64歳まで、いわゆる生産年齢、現役世代と呼ぶのですが、1950年にはこの年代の人口が多かったのです。でも今は高齢者と定義されている65歳以上が圧倒的に多くなっています。人口ピラミッドが三角形のピラミッド形をしていませんね。因みに今年の出生率がまた減少したと報道されていましたが、これは大変困ったことなのです。少子化というのは多くの問題を含んでいますが、なかでも大変なのは財政に関連することですね。要は65歳になると年金受給が始まるわけです。加えて日本は長寿社会ですから、少ない数の現役世代と長寿の高齢者のバランスがおかしくなると、年金や医療、介護といった費用捻出が難しい課題となってしまうのですよ。

日本人の平均寿命と健康寿命

本当は1990年あたりのバブルの頃から、少子高齢化はもうわかっていました。ただ当時は景気が良かったので、ほとんど注目されなかったのです。しかし確実に少子高齢化は進んでいきましたね。

日本は医療事情が良いし食糧事情も良く、さらに下水道が発達していて病気の媒介が少ないという特徴があります。そして何より平和です。紛争や戦争がないからそういう犠牲者が出ません。このようにいろんな要素があつて、日本は平均寿命が伸びてきました。今や世界で一番ですよ。正確にいうと日本女性が世界一、男性は世界で二番です。平均寿命はこれからも伸びていくと推察されていますね。2070年には男性86歳、女性92歳。人生100年時代というのも現実味がありますね。ただし平均寿命というのは、健康・不健康を合わせたもの。そこでもう一つ大事な寿命が健康寿命です。日本はこちらも世界一です。

問題は平均寿命と健康寿命の間に何年の差があるか、なのです。平均的に健康じゃない期間があるわけです。日本人で平均すると10年くらいですね。この期間、何が必要になるかという圧倒的にかかる費用は医療費と介護費なのです。医療と介護、それに年金を加えた三つが三大社会保障制度です。